

中国における子どもの悪口唄の特徴と機能に関する人間学的考察

肖 塵 嫣

はじめに

近年、筆者は日本の子どもの悪口唄に触れる機会を持った⁽¹⁾。その中で、「一年いも掘って、二年煮て食って、三年酒のんで、四年よっぱらって、五年強盗、六年牢屋」という唄を見て、筆者自身が小学校のとき歌っていた悪口唄を思い浮かべた。「一年生は泥棒、二年生は盗人。三年の美人は彼氏ができず、四年のイケメンはヤンキー。五年のラブレターはいっぱいあり、六年の恋人たちはラブラブ⁽²⁾」。小学校一年から六年までの子どもを順にからかう唄で、日本の唄によく似ている。ただ、日本の唄は「いちねん、いも」「にねん、にて」「さんねん、さけ」と頭韻を踏んでいるが、中国の唄にはそのような言葉遊びの要素はない。その後インターネットで、中国各地の人が子どもの頃に歌った悪口唄を調べてみたところ、筆者が歌っていたものとだいたい同じだと気づいた。これらの悪口唄が歌われた当時はまだイ

ンターネットは発達していなかったはずで、何故同じような唄が中国全土で伝承されるのか、また国境や言語の壁を越えて日本でも伝承されているのは何故なのかについて関心を覚えた。中国では、悪口唄は「教育上好ましくないもの」と見なされ、それ故に研究の対象として認められてこなかったジャンルと言える。しかし、大人に禁止されても悪口唄が子どものなかで広く伝承されている理由は、子どもにとって悪口唄が重要な存在だからではないかと推測される。

藤本浩之輔は、文化とは芸術や文学や科学だけでなく、「一つの社会、一つの集団の人々がつくって、そしてずっと伝えてきている生活のしかた」であるという文化人類学の考え方を紹介した上で、「子どもの世界も文化に満ちている……子どもたちもすばらしい文化をたくさん蓄積してきている」（藤本一九九六・二二―二二）と指摘する。また、鶴野祐介によれば「人間学」とは、様々な角度から様々な方法を用いて「人間は何者であり、いかにしてヒトから人間へと成るか、そしてどのよ

うに変わっていくか」を考える学問である。そしてこの「様々な角度」には、A. 人の一生の歩みとその過程における変化、B. 人間としての属性、C. 人間として生きることの意味、D. 生きていく証としての基本的行為などがあるとされる（鶴野二〇一五・一三一―四）。

本稿は、「悪口唄」という子ども文化を取り上げて、歌うという「生きていく証としての基本的行為」を考察し、悪口唄の機能、つまり子どもにとって悪口唄を歌うことの意味を探っていくが、これは上述の観点から見て人間学的考察に相応しいものと言える。本稿では、文献調査やインタビュー調査を用いて、中国における悪口唄を含むわらべうたの歴史、悪口唄に関する先行研究や筆者自身がインタビューで集めた資料を検証した上で、中国における子どもたちの悪口唄の特徴及びその機能について人間学的考察を行う。

一．中国におけるわらべうたの歴史

中国におけるわらべうたは長い歴史を持っている。「わらべうた」は中国の古代文献では「童謡」「童子歌」「孺歌」「嬰兒歌」「小兒語」「小兒語」などと呼ばれる（蔣二〇〇七・四）。中国最古のわらべうたは『列子』（紀元前四五〇―三七五）に記録されている「立我烝民、莫匪爾極。不識不知、順帝之則」というものである。その意味は、「私たちの生活を成り立たせているの

は、あなた様のおかげです。知らず知らずのうちに、帝の手に従っています」というものである。堯が五十年間天下を治めたが、世の中が治まっているかわからなかった。彼は周りの人に聞いたが、「わからない」と言われた。堯は一般人の服を着て町に出ると、子どもたちがこの唄を歌っているのを聞き、自分は国をうまく治めていることがわかったという（雷・王・蓋二〇〇三・一一三）。このことから、二千年百年前の中国において既にわらべうたが存在していたことがわかる。⁽⁴⁾

明代（一三六八―一六四四）以前の文献に記録されたわらべうたはほとんど政治に関連するものである。雷群明らによると、中国古代のわらべうたは、政情が安定しない時期や王朝の末期に多い。その原因として、政情が不安定な中で、民衆は噂を広めるツールとしてわらべうたを利用し、反乱を起こす準備をしたことが考えられるという（同上 四一五）。具体例を一つ挙げておこう。一三五一年、元朝の朝廷は一五万人を黄河掘削工事に徴用し、民衆は苦しんでいた。そうした中で劉福通という元朝を倒そうとする人が、「石の人は一つの目だけあるが、黄河の民衆を率いて反乱を起こす」というわらべうたを広めるために、それを石の人に彫って黄河の岸に埋めた。民衆は土を掘って石の人を見つけ、そのわらべうたを歌った。それをきっかけに、苦しんでいた民衆は元朝に対する反乱を起こし、元末最大規模の農民反乱に至ったという（同上 一六六一―六七）。

また、民衆はわらべうたのなかで愚かな皇帝や役人をののし

る。例えば『南史・張敬兒伝』の中に、次のようなわらべうたが記録されている。「天子はどこ？ 赤谷の入り口だ。天子は誰？ 豚じゃなければ、犬だ」(同上 七)。国の一番権力を持っている天子を豚や犬に例えて揶揄する。また、「千里草、どんなに青いだろう。十日卜、生きられない」という漢代末期のわらべうたでは、「字謎」(判じ読み)を用いて政治家の董卓をののしる(同上 六〇一六二)。「千里草」を組み合わせると「董」になり、「十日卜」は「卓」になる。つまり、董卓は政治的混乱に乗じて今は政治の実権を握っているが、民衆の反感を買い、将来は絶対殺されることを暗示する。

社会を批判し、民衆の生活の苦しさを訴えるわらべうたもある。『後漢書・五行志』の中に、「素直な人は殺され、へつらう人はかえって役人になる」というわらべうたがあり、社会制度を批判する(同上 四三三四五)。漢代末期には、次のようなわらべうたも歌われていた。「太岳の飢えた民は市場のように、飢え死した人は林のように。お金を持って米を買いすが、米は黄金より高い」(同上 四一六)。大飢饉の様子を生き生きと表している。

以上のように、明代以前のわらべうたは主に政治に関するものである。『晋書・天文志』によると、火星が天から地に降り、子どもに化けて人間の子にわらべうたを教え、その唄は将来現実になるといふ(車 一九八三・四六一四七)。このことから、明代以前においてわらべうたは神霊的存在が降臨して子どもたちに教えたものであり、将来のことを予知できると思われてい

たことがわかる。こうして、わらべうたは子ども自身の文化としてではなく、神の予言として記録されてきたが、但しそれは、実際には大人が作って子どもに歌わせたものと考えられる。なお、明代以前に刊行された『北齊書』(六三六年)や『旧唐書』(九四五年)などにも子ども自身が作ったわらべうたが散見されるが、その数は少ない(周 一九八九・二九一三〇)。

明代になると、経済や文化が発展し、わらべうたの収集も盛んになった。政治に関するものだけでなく、子ども自身が歌っていたものも多く記録されている。例えば、明代の文人である楊慎は『古今風謠』(一五四三年)に、子どもが日向ぼっこするとき、雨乞いをするときや遊ぶときに歌うわらべうたを記録した(蔣 二〇〇七・五一〇)。

この時期、子どもが歌っているうたを教育に役立つように改変した替え唄を載せた本が現れた。一五五八年、呂得勝が著した『小兒語』である。その前書きには、以下のように述べられている。「子どもは話すようになると、わらべうたを歌って楽しんでいふ。わらべうたは子どものなかで伝承され、その作者はわからない。……子どもは知識を身に付けると、立派な人になる。俗なわらべうたには害はないが、覚える意味があるだろうか。私が教育に役立つ話をリズムカルで俗なわらべうたにして教えたなら、子どもは楽しく聞いて覚えるだろう。子どもは遊びながらそれを歌い、勉強にもなる。一人の子どもが歌を覚える

と、ほかの子に伝えることができる。子どもたちはいい唄を覚え、知識も少し身に付くかもしれない(同上 六)。彼は、わらべうたは神の予言ではなく、大人が教育や娯楽を目的として子どもに与える文化、すなわち藤本浩之輔の言う「大人供与の文化」(藤本 二〇〇一:三〇)であり、尚且つ「子ども自身の文化」でもあると主張したのである。また、わらべうたの特徴、すなわち作者が特定されないことや子どものなかで伝承されていることについても言及している。

一五九三年、呂得勝の息子・呂坤は、父の本に基づき、河南山西や陝西で集めた子ども自身のわらべうたをこれに加えて『演小兒語』を出版した。これが中国最古のわらべうた集とされる。¹⁷⁾ この中には四六曲のわらべうたが収録されているが、歌詞の主なモチーフは以下の通りである。

- ・子どもの日常生活(座ること、走ること、泣くことなど) 一九曲
- ・動物(犬、インコ、鴨など) 一〇曲
- ・身近にあるもの(灯り、ほうき、煙など) 七曲
- ・近所の人(瓜を売るおじいさん、お坊さん、おばあさんなど) 六曲
- ・食べ物(小麦粉、えんどう) 二曲
- ・自然現象(雨、星) 二曲

呂得勝や呂坤の目的は「役に立たない」わらべうたを教育的に意味がある唄に替え、それを通して子どもたちを教育するこ

とであった。二人は悪口唄を「いい唄」に改変しようとしたと考えられる。

清代に入ると、『天籟集』(鄭旭旦編 一六二一―一七二二)、『広天籟集』(悟痴生編 一八七二)、『越諺』(範寅編 一八八二)など、数多くのわらべうた集が出版された。わらべうた集の編集には中国人だけでなく外国人も関わっている。一八九六年、イタリア人のビターレ(Guido Amedeo Viale)は北京のわらべうたを七〇曲集めて英語に訳した『北京兒歌』(Pekinese Rhymes)を出版した。一方、一九〇〇年、アメリカ人のヘッドランド(Jesac Taylor Headland)は一四〇曲のわらべうたを収載した『孺子歌図』(Chinese Mother Goose Rhymes)¹⁸⁾を出版した(同上 七七八)。こうして、中国のわらべうたは海外でも注目を浴びるようになった。

近代になると、わらべうたや童謡をテーマにする雑誌が現れた。『小夜月報』(一八七五)、『蒙学报』(一八九七)、『童子世界』(一九〇三)などである。一九一一年、日本留学から帰国した周作人は故郷の紹興でわらべうたの収集と研究を始め、一九一四年に『紹興県教育会月刊』第三号に「兒歌之研究」を発表した(袁 二〇一九:六)。一九一八年、周作人は北京大学の教員である劉半農、沈尹默とともに「歌謡征集処」を立ち上げ、全国の民謡を収集した。これは「歌謡運動」と呼ばれている。一九二〇年に「歌謡研究会」が作られ、一九二二年には機関誌『歌謡周刊』が発行された(斉 二〇一五:六五―六七)。

「歌謡運動」は一九三六年六月に終わったが、約一八年の間に一万六千曲ぐらいの民謡を集め、その中にはわらべうたも少なくない。また、こうして収集されたわらべうたに基づいた論文も数多く発表された。例えば、周作人「読『童謡大観』」（一九二三年三月『歌謡』一〇号）、同「読『各省童謡集』」（一九二三年六月五日『晨报副刊』）、加白「童謡的芸術価値」（一九二三年七月三日『民国日報』副刊『覚悟』）、馮国華「唱歌的研究」（一九二三年一月『民国日報』副刊『覚悟』）、褚東郊「中国児歌的研究」（一九二七年六月『小説月報』第一七卷号外『中国文学研究号』）などである。これらの論文は、わらべうたの歴史、特徴、機能、内容、分類、価値などについて考察を行った。（袁 二〇一九・七・八）。「歌謡運動」中、わらべうたの研究が盛んになったことがわかる。

論文の他に、周作人は一九二二年に「現代の詩及詩人」（柳澤健 尚文堂 一九二〇）に収載された柳澤の論考「子供の世界——童謡に就いて——」を中国語に翻訳し、『詩』第一巻第一期に掲載した。彼はまた、一九三七年に『童謡及民謡研究』（百田宗治編 巧人社 一九二三）のなかの白鳥省吾「新しい民謡と古いと民謡」を翻訳し、『歌謡』第三巻第一〇期に載せた（李・羅二〇一九・一〇〇）。中国における民謡、童謡やわらべうたの研究は、日本の影響を受けたと考えられる。

以上より、中国におけるわらべうたの歴史は次のように概括で

きる。古代より、わらべうたは文献に登場し、それは「神の予言」だと思われていたが、明代以降には「子ども自身の俗な唄で、害はないが勉強には役立たないもの」と認識されるようになり、わらべうたに着目した大人たちは、これを教育的に意味があると思われる「いい唄」へと改変し、それを使って子どもを教育しようとした。その結果、一六世紀になるとわらべうた集が出版されるが、そこには「いい唄」だけが記録されることになった。近代に入ると、わらべうたは子ども自身の文化として注目を集め、研究の対象となった。しかし、子どもたちのなかで伝承されている悪口唄のような「役に立たない唄」についての形態論的な特徴や人間学的な意味に関する研究はほとんど行われていない。

二．「悪口唄」の中国語名称と先行研究

中国では、「悪口唄」にはさまざまな名称がある。例えば「灰色童謡（グレー童謡）」「怪味童謡（怪しい童謡）」「另類童謡（変異童謡）」「痞子童謡（ヤンキー童謡）」などであり、その名称から、悪口唄は暗くて怪しいものというイメージや、伝統的な価値を持つ主流文化と異なり、悪い子だけが歌うものというイメージが持たれていることがわかる。

「灰色童謡（グレー童謡）」「怪味童謡（怪しい童謡）」「另類童謡（変異童謡）」「痞子童謡（ヤンキー童謡）」をキーワードとして先行研究を検索すると、三〇〇本ほどの論文が抽出されたが、

その多くは悪口唄の有害性を述べ、流行する原因と、そこから類推される今日の教育の問題性を分析し、その対策を考案するものであった。

例えば劉慧芬・林存華は、「悪口唄には『勉強する意味はない』『先生を尊重しない』などの間違った価値観があり、学校を爆破するような暴力的な表現もあり、子どもの人生に悪い影響を与える……詰め込み教育のせいで、子どもは勉強に対して抵抗があり、学校を爆破する唄を歌う。親や先生の期待が重く、子どもはそれに応えられなくなり、親や先生をからかう唄を歌う」と指摘し、その対策として「親や先生は子どもを理解し、子どもの個性を尊重して、正しい価値観を教える必要がある」と述べている（劉・林 二〇〇七：二六一―二八）。

また、馬家安・余妍霞は「悪口唄を歌うと、子どもはネガティブな人間になり、反抗心が強くなる。なんでも不真面目に取り組み、生意気な態度を取る」と述べ、「学校が勉強だけを重視して、子どもの精神の健康を無視する」ことが悪口唄の流行する原因であるという。「先生が子どもを尊重して、自分の考えを子どもに押し付けなければ、子どもが悪口唄を歌って不満を言うことはなくなるだろう。学校は子どもに勉強だけをさせるのではなく、多様な部活動を行い、運動会や芸術祭などのイベントを積極的に開催すると、子どもの生活が豊かになり、悪口唄に目を向けなくなる」と提案する（馬・余 二〇〇八：三二―三三、三四）。

さらに、胡桂勤は「悪口唄にはネガティブなことが多く、暴

力やエロティックな表現もある。それが広がると、子どもの精神の健康を損ない、民族や国の未来に影響する」と述べ、その原因として、「今の小学生は毎日夜九時まで宿題をして、週末は塾に通う。勉強だけの生活はつまらなく、悪口唄が唯一の楽しみになり、ストレス発散の方法になる。また、優れたわらべうたが少ないために、子どもが悪口唄に興味を持つことになっているということも想像に難くない」という。従って、「先生や親は子どもを理解し、いい歌を創作して、または覚えにくい知識をリズムミカルな歌にして子どもに歌わせたら、子どもは悪口唄を歌わなくなるだろう」と提案する（胡 二〇一三：六一―六七）。

一方、悪口唄の意味について考察した論文は少ない。岳倩によると、悪口唄は学校の主流文化に対する子どもの抵抗であり、自己主張や感情解放の方法である。子どもはそれを通して自分の思想を表明する自由を求めるといふ（岳 二〇〇八：二五―二七）。児童文学作家である高洪波は、「悪口唄を見ると、現代の子どもは頭がよく、観察力や創造力が高く、ユーモアがあることがわかる。大人をからかう唄に、親や先生は神経をとがらせる必要はない。一部の唄の言葉には意味がなく、ただリズムがいいから子どもに好まれる。しかし、ストレス発散、おもしろさも悪口唄を歌う理由だ」と述べている（楊 二〇〇一）。

以上の先行研究を要約すれば、多くの評者が、悪口唄は子ども成長に悪いと思っており、悪口唄は間違った価値観を教え、人生に悪い影響を与え、子どもをネガティブな人、不真面目な

人にするものと主張しており、一部の評者が、悪口唄を歌うことは自己主張、感情解放、ストレス発散、ユーモア感受などの意味を持ち、子どもの観察力や創造力、ユーモア感覚を反映すると主張しているにすぎない。悪口唄の一般的なイメージはよくない。「子どもの精神の健康を損ない、民族や国の未来に影響する」といった指摘もあり、国益に反するものとして、極力避けられるべきものだと思われることがわかる。

一方、子どもの悪口唄に関する日本の主な文献資料として、古くは岡本昆石編『あづま流行時代子供うた』(一九九四)に幕末の江戸土族の子どもの悪口唄が収められている。近年では、川崎洋『日本の遊び歌』(一九九四)の「囃し歌」という章に数多く記録され、川崎『かがやく日本語の悪態』(一九九七)にも何曲か収載されている。一方、イギリスではオービー夫妻が、『I Saw Esau: The Schoolchild's Pocket Book』(一九四七)、『The People in the Playground』(一九九三)等の中に子どもの悪口唄が収載されている。

鶴野祐介によると、日本だけでなく、イギリスやアメリカのわらべうたにも暴力やエロスのモチーフを含む悪口唄があるが、大切なのは、親は悪口唄が「さかさまの世界」でだけ通用することを教え、子どもが大人たちの目の届かない所、または大人世界の〈すき間〉において、自分のうたや遊びを存分に楽しむ時間や場所を確保してやることである。そうすると子どもは「正しい世界(＝現実世界)」と「さかさまの世界」という二つ

の世界を歩き来して、バランスを保って生き生きと過ごすことができるという(鶴野 二〇〇〇:一〇二)。つまり、悪口唄は世界中の子どもたちのなかで伝承されており、子どもたちの生き生きとした生活に貢献しているというのである。

中国には、子どもだけでなく、大人の民謡の中にも悪口唄がある。例えば、遼寧省庄河県には、「酔っ払って妻を殴って、妻が死んだら、商売してお金を稼いで、新しい嫁を迎える」という唄がある(遼 一九八七:二二)。広東省梅州市には、「おまえの家はトイレの上に建て替えた。春節の日に腐った豚肉しか食べられなかった。おまえの提灯はぼろぼろ、服は紙でできて、お椀はおまるだ⁽²³⁾」という唄がある(粵 一九八一:一七五)。悪口唄は子どものなかでも大人のなかでも伝承されていることがわかる。

筆者の考えでは、悪口唄は決して胡桂勤の言うような、「子どもの精神の健康を損ない、民族や国の未来に影響する」(胡 二〇一三:六)ようなものではない。子どもも大人も、現実世界に疲れると、悪口唄の世界でストレスを発散し、また現実世界に戻り、力強く生きていくことができると考えられる。この仮説を、次節以下において、子どもの悪口唄の実例の分析を通して検証してみたい。

三. インタビューで集めた子どもの悪口唄の特徴

二〇二一年六月、筆者は二四人の知り合いにメールなどを用

いてインタビュー調査を行い、主に以下の三つの質問をした。「子どものころ、どんな悪口唄を歌いましたか」「なぜそんな唄を歌ったと思いますか」「悪口唄の意味はなんだと思いますか」。

二四人の内訳は以下の通り。

- ・性…男性一二人、女性一二人。
- ・年代…二十代二人、三十代四人、四十代一人、五十代三人。
- ・民族…漢民族二〇人、少数民族四人（白族、土家族、チベット族、満族）。
- ・地域…四川省八人、江蘇省三人、河北省三人、河南省二人、浙江省二人、上海市二人、湖南省一人、吉林省一人、黒龍江省一人、広西省一人。

回答として六八曲の悪口唄が寄せられた。筆者はそれらを二二テーマ（①相手の属性、②相手の外見、③相手の行為、④相手の家族、⑤唱歌、漢詩の替え唄、⑥数え唄、⑦食べ物、⑧動物、⑨排泄、⑩自分、⑪兄弟、⑫政治）に分け、その特徴をまとめた。

① 一句が五音や七音から成る唄や押韻の唄が多い。

日本語と異なり、中国語は基本的に一つの漢字が一つの音節と対応している。漢詩には、一句が五字から成る「五言詩」や七字から成る「七言詩」が多い。筆者が集めた六八曲の悪口唄には、五音の唄が二四曲、七音の曲が二二曲あり、半分以上を

占めている。五音や七音が混ざる唄や、空白を入れて五音や七音にする唄もある。漢詩の替え唄も多くあり、漢詩のリズム感の影響を受けたと考えられる。

また、全ての悪口唄の句の末尾は韻を踏んでいる。漢詩のように第一、二、四句の末尾で同じ韻を踏んでいる唄があり、最初から最後まで同じ韻を踏んでいる唄や何回も脚韻を変える唄もある。悪口唄は漢詩の影響を受けながら、それに基づいてより多くの種類を生み出した。音節や押韻のルールは漢詩より緩く、さらに自由な表現ができる。小泉文夫は「わらべうたを対象にとつて調べてみると、じつはもともと基本的な日本音楽の特徴が、音階にしてもリズムにしても、よりはっきりと捉えられる」と述べているが（小泉 一九八六・九）、中国のわらべうたにも漢詩のリズムが反映されている。

② 時代や文化の違いや離れた距離を越えて伝承される唄がある。

インタビューの結果を見ると、異なる世代が全く同じ唄を歌うことや、距離的に離れ、異なる文化を持つているところに同じ唄が伝承されることがわかる。例えば、「一二三四五、山に登って虎を撃つ²⁴」という唄は二十代、三十代、五十代の人に歌われる。一年生から六年生を順にからかう唄は四川省、湖南省、河北省や浙江省で伝承され、四川省アバ・チベット族チャン族自治州でも伝承される。小さな違いがあるが、その内容がだいたい同じである。四川省から浙江省まで一八〇〇kmぐらいがあ

り、少数民族自治州の文化や言葉が異なっているが、同じ唄が伝承される。小泉文夫は日本全国でわらべうた調査をすると、北海道や青森と鹿児島や沖縄は、距離的に離れ、自然や文化的環境が異なっているにもかかわらず、共通するわらべうたが多いことに気づいた(同上 一二七)。同じわらべうたが全国で広く伝承されることは、中国でも日本でも見られる。

③ 時代の変化が感じられる。

二〇代と五〇代の回答者の食べ物に関する唄を比較してみると、中国の経済発展が感じられる。「にんじんは甘い。春節はすぐ来る。子どもは肉を食べたいが、お父さんはお金がない。よだれを飲んで、唇を舐める」⁽²⁵⁾、これは五〇代の女性から聞いた唄である。一九七〇年代の中国は貧しく、多くの人は春節の日にか肉を食べることができなかった。子どもが多い家庭では、春節の日でも肉の代わりに野菜を食べた。この唄が描いたように、「肉を買うお金がなく、春節ににんじんを食べる」ことはよくあることだったであろう。

二〇代の五人から聞いた唄はそれと異なる。「おかゆ、さらさら。漬物、さくさく」⁽²⁶⁾「夕暮れの風がそよよと澎湖湾に吹き渡り、白い水で麵を茹でる。醤油はないけれど、塩をたくさん入れるとおいしい」⁽²⁷⁾「日は香炉を照らして紫煙を生ず、李白は北京ダックの店に来る。よだれを三千尺垂らし、ポケットを触ったらお金はない」⁽²⁸⁾「ドドド、甘いおかゆを買う。三斤のくるみ、四斤の穀。

おまえのくるみを食べ、おまえに殻を返す」⁽²⁹⁾。二一世紀初頭、中国の経済が発展して、肉を食べることはそれほど難しくなくなった。しかし、今日ほどには発展しておらず、さらさらのおかゆと漬物、水だけで具を入れない麵を食べたこともあるだろう。一九七〇年代の子は「肉を食べたい」に対して、二一世紀初頭の子にとって値段が高い北京ダックを食べることや、甘いおかゆを飲み、腹いっぱいくるみを食べることが憧れになっているのかもしれない。この変化は経済の発展を端的に表している。

政治に関する唄も時代の変化を感じさせる。一九六六年から一九七六年まで、「封建的文化、資本主義文化を批判し、新しい社会主義文化を創る」ことを目標とする文化大革命があった。五十代の女性「さんは「アメリカ帝国主義を打倒せよ」という唄を歌った。一九九一年にソ連が崩壊し、二〇世紀末から二一世紀初頭まで東欧諸国が相次いで北大西洋条約機構への加盟を申請し、北大西洋条約機構の東方拡大に対して中国が警戒した。当時中学校にいるAさん(二〇代)は「おれは北大西洋条約機構を爆破する、その機構はばかばかしいから」⁽³¹⁾と歌った。二〇〇三年にイラク戦争が始まり、三年後サダム・フセインの死刑が執行された。当時高校に入ったばかりのBさん(三〇代)は「我が家は黄土の長い坂にあり、サダム(サダム・フセイン)はおれの従兄だ。ブッシュ・シニアもブッシュ・ジュニアも、おれにかかつては全くとお手あげだ」⁽³²⁾と歌った。小泉文夫によると、日本のわらべうたにも「太田ドカンがはれつして、山からさいふがコロンブス。サ

イフの中はナイチンゲール、おやじのふんどし、マックミラン」という非常に時事的なものであるという(同上 一五一)。日本でも中国でも悪口唄は時代を反映すると思われる。

④ 男女差が見られる。

潘健らは、江蘇省通州市の西亭小学校で、一〇〇人の児童にアンケート調査やインタビュウを行った。その結果、悪口唄を歌う男の子が六二・七九パーセントに対して、女の子は三七・二二パーセントと、悪口唄の伝承者は主に男の子であると結論づけた(潘ほか 二〇〇五・一〇一―一三)。筆者のインタビュウの結果を見ると、女性の唄より、男性の唄の方が過激かつ直接的であり、エロティックな表現や、排泄や政治に関する表現がより多く見られる。

例えば、二〇代女性の唄では「六年の恋人たちは一緒にベッドに寝る³⁵」だけであるが、二十代男性の唄では「床前明月の光かがおまえだ³⁶」、「パンツ一丁で桃花島に来た。紫薇(中国の女優)がシャワーを浴びているのを見た³⁵」と歌われる。排泄に関する二〇代女性の唄では「おなら」だけであるが、二〇代男性の唄では「黄河の兩岸を跨いで、手には秘密の資料を持っている。前方からは機銃掃射が、後方からは大砲が発射する³⁶」という、脱糞する様子を描写したなぞなぞや、「夕暮れの風がそよそよとトイレに吹き渡り、ハエが尻の穴に押し寄せる。トイレレッ

トペーパーがなくてどうしよう、手で尻の穴を拭こう³⁷」という、下品な描写もある。二〇代や三〇代の女性の唄には政治に関するものがないが、同じ年代の男性唄には、「北大西洋条約機構を爆破する」や「サダムはおれの従兄だ」といった、過激で大胆な言葉がある。以上のような男女差が見られる。

四. 子どもの悪口唄の機能

鵜野祐介は日本における子どもの悪口唄について、その人間学的意味を、A. フラストレーション(欲求不満)やリビドー(性的衝動)の解放、B. 大人(文化・社会)への関心・憧憬、C. 連帯感(仲間意識)の創出、D. マジョリティ(社会的強者・優位者)への異議申し立て、E. 言葉のバトルの楽しさの体感、の五点にまとめている(鵜野 二〇一九・八)。

筆者の行った中国人二四人へのインタビュウにおいて、まず「なぜ悪口唄を歌いますか」という質問への回答には「おもしろい」(二人)、「リズムがよくて覚えやすい」(一人)、「みんなが歌うから私も歌う」(五人)、「友だちとの交流」(二人)、「歌を通して不満を言う」(二人)、「学校生活の楽しみ」(二人)、「好奇心が強くてすぐに覚える」(一人)、「ほかの子に教えて自慢する」(二人)、「けんかするとき悪口唄はのしり言葉より勢いがいい」(一人)、「日常生活に近い」(一人)、「つまらない漢詩や漢文をおもしろくする」(一人)、「悪口唄をたくさん聞ける環境

に育てられる」(一人)があった。

次に、「悪口唄の意味はなんだと思いますか」という質問に対して、「子どもの楽しみ」(八人)、「意味はない」(五人)、「一部の唄には意味があるが多くの唄にはない」(二人)、「子どもは歌を通して自分の気持ちを伝える」(二人)、「友だちとの交流」(二人)、「一つの集団に属する証し」(二人)、「友だちを作る方法」(二人)、「子どもの文化」(一人)、「つまらない漢詩や漢文をおもしろくする」(一人)、「子どもの記憶力と話す能力を鍛える」(一人)、「唄と遊びを組み合わせるとさらに楽しい」(二人)、「子どもの成長によくない」(一人)といった回答が寄せられた。

これら二つの質問への回答を見ると、鶴野の指摘とほぼ同じ傾向が見られることがわかる。しかし、前述の特徴からそれ以外の機能、すなわち子どもにとっての悪口唄を歌うことの意味も見えてくる。

① 伝統を受け継ぎながら新しいものを創造する力を身につける。

前述したように、悪口唄には一句が五音や七音から成るものや押韻のものが多い。小泉文夫は、「音楽、とりわけリズムというものは、人びとの生活様式や環境との関係が密接なものです」と述べている(小泉 一九八六・一一二)。中国の子どもは小学校一年から漢詩の勉強を始める。そのため、悪口唄のリズムも漢詩によくある「五言詩」と「七言詩」、第一、二、四句の末尾で同じ韻を踏んでいることに影響されると考えられる。しかし、悪口唄

は漢詩よりルールが緩く、五音や七音が混ざる唄、空白を入れて五音や七音にする唄、最初から最後まで同じ韻を踏んでいる唄や何回も脚韻を変える唄など様々な種類がある。中国の子どもは悪口唄を通して中国語の伝統的なリズムを身につけながら、それに基づいて新しいリズムを作り出している。伝統を受け継ぎながら新しいものを創造する力を身につけると考えられる。

② 時事を知る。

中国一九七〇年代の唄には「アメリカ帝国主義を打倒せよ」という文化大革命を反映するものがある。二一世紀初頭の唄には北大西洋条約機構、サダム・フセイン、ブッシュ・シニアやブッシュ・ジュニアが出てきて、いずれも時事問題を反映している。子どもは悪口唄を歌うことによつて当時社会の出来事があり、政治の世界にも「入門」すると「言える」。

③ 楽しみながら前向きな態度を身につける。

悪口唄を歌う理由として、回答者二四人中一人が「おもしろいから」と答え、二人が「学校生活の楽しみだから」と答えた。また悪口唄を歌う意味として、八人が「子どもの楽しみ」と答えた。「おもしろいこと」や「楽しいこと」が、子どもが悪口唄を歌う一番の理由である。Aさんは「学校で朝から晩までずっと勉強して、つまらないし、ほかに楽しみはない。だからおもしろい唄を歌って楽しんで」と述べ、Sさんは「授業

日に一〇分間の休みは短くて、下の運動場に行けない。唄を歌わなければつまらない」と述べている。AさんとSさんの他に、三人が「漢詩や漢文はつまらないので、おもしろい唄にして楽しんでる」と述べている。重圧のかかる学業の下、子どもは一生懸命楽しみを探している。難しい漢詩や漢文を数多く覚えなければならぬ中で、それをおもしろい悪口唄にして歌う。長く詰め込み教育がメインで、受験競争が激しい中国では、悪口唄は子どものストレス発散の方法となり、子どもの心の健康を保っていると言える。また、一九七〇年代の中国では食べ物足りなくても、子どもたちは「子どもは肉を食べたいが、お父さんはお金がない。よだれを飲んで、唇を舐める」と歌って楽しんでる。どのような困難があっても、子どもは前向きな態度を取り、唄を歌って乗り越えようとする。悪口唄から、どのような環境でも楽しめる子どもの強い生命力が感じられる。

④ 感性や想像力が伸長する。

インタビューの結果を見ると、大人が見ればなにも考えないかもしれないものを、子どもは様々な場面を想像して楽しんでいることがわかる。丸い頭を見るとそれはボールのようで、蹴ったらどうだろうと考え、「○○さんの頭、ボールみたい。それを蹴ったら、ボールはデパートに転がった。デパートでボールが販売されたが、○○さんの頭だった」と歌う。和式の便所を「黄河の両岸」、トイレトペーパーを「秘密の資料」、排泄物を「機

銃」と「大砲」に例えるなぞなぞもあり、トイレに行くことを戦争の場面として想像している。子どもは悪口唄を創作することによって、感性や想像力が伸びると考えられる。

⑤ 言葉を習得し記憶力が強化される。

回答者二四人中一人が「リズムがよくて覚えやすい」ため、悪口唄を歌うと答えている。川崎洋は、「悪態には、擬声語・擬態語のように、意味より音声の響きに重きをおかれる一面があります。もともと言葉は意味だけでなく、音声そのものが大きな力となります」と述べている(川崎 一九九七:四)。子どもは悪口唄の意味より、音声の響きやリズムを楽しんでいると考えられる。二人が「唄の内容をあまり理解できないが、ほかの子が歌い、私も歌う」と言い、一人は悪口唄を歌うことの意味が「子どもの記憶力と話し能力を鍛える」ことだと答えている。子どもは悪口唄を通して言葉を習得する。最初はリズムがいいため唄を覚え、その意味もよくわからないが、歌ううちに自然と語彙を身につける。例えば、「デパート」という言葉がわからない子は、「○○さんの頭、ボールみたい。それを蹴ったら、ボールはデパートに転がった。デパートでボールが販売されたが、それは○○さんの頭だった」という唄を聞くと、「デパートはものを売る場所だ」とわかるかもしれない。子どもは悪口唄を数多く覚えることで、語彙が増え、記憶力も高まる。特に数え唄を覚えると、数字や数え方がわかる。

⑥ 社会的ルールや生き方を学習する。

悪口唄は大人に敬遠されるが、その一部には教育的意味がある。Gさんは「ねずみがランプに登った。灯油をこっそり食べた後、降りることができなかつた⁽³⁹⁾」。この唄は、他人のものを勝手に取っちゃだめ、貪欲だったらだめという意味があるのかもしれない」と述べている。Jさんによると、「お金を借りて返さないやつ、尻の穴は南に向ける。お金を借りて返さないやつ、尻の穴は北に向ける⁽⁴⁰⁾」は、お金を借りたら返さなければならぬということを教える。「一日勉強しないと、劉少奇（中国の政治家）に負ける⁽⁴¹⁾」は勉強の重要性を教える」という。

子どもは悪口唄で人生の生き方も学べると、筆者は考える。子どもは競い合うことを好む。ドアに入るとき、誰もが一番先にやりたいと思い、「長子は飛行機を運転して、次子は爆弾を投げる。三子は足が速くて逃げたが、四子はめちやくちやになつた⁽⁴²⁾」と走りながら歌い、最後の子をからかう。しかし、筆者が小さいとき、「一命一、お腹が大きい、変な子どもを産んだ。二命一、おまる。三命三、役人になって、家に座ってビスケットを食べる⁽⁴³⁾」という唄を歌い、一番先になる子をからかった。誰もが一番後になりたくて、じっと待ってドアに入ろうとしない。子どもは一番を目指さだけではなく、最後も目指すということが興味深い。この唄は、「みんなが動いても、私はじっと待とう。諦めずに最後まで頑張ればきつと勝つ」、「最後になることが必ず負けを意味するわけ

はない」ということを教えているのではないだろうか。

おわりに

潘健らが西亭小学校で行った調査の結果を見ると、悪口唄を歌う三年生や四年生は五一・七六パーセントで、五年生や六年生は七二・五一パーセントである（潘ほか 二〇〇五・一一）。悪口唄が二一世紀初頭の中国においても、多くの小学生たちに歌われていることがわかる。本論で言及したように、悪口唄は「子どもの精神の健康を損ない、民族や国の未来に悪影響を及ぼす」（胡 二〇一三・六）との指摘が見られたが、七〇パーセント以上を占める悪口唄を歌う小学五、六年生が精神の健康を損なっているとは到底思えないし、また中国の発展が悪口唄によって悪影響を受けるわけでもないだろう。

中国の子どもは悪口唄を歌うことを通して、中国語の伝統的なリズムを身につけ、それに基づいて新しいリズムを創造する。社会の出来事がわかり、政治の世界にも「入門」すると見える。精神の健康を保ち、困難を乗り越える勇気をもらう。感性や想像力が伸び、語彙力や記憶力が高まる。社会的ルールや生き方を身につける。日常生活の中で歌う悪口唄によって身につけたものは、一生忘れないだろうと思われる。

中国では、二〇二二年五月から三人っ子政策が、また九月からは小中学生の「宿題」と「塾通い」の二つを減らす「双减政

策」が始まり、子どもを取り巻く環境が大きく変わった。こうした変化は、悪口唄をはじめとするわらべうたや子どもたちの世界にどのような影響を与えるのかについて注目していきたい。また今後、「絵かき唄」「数え唄」「鬼決め唄」など、様々なジャンルの中国のわらべうたの特徴やその機能（意味）に関する研究や、わらべうたにみる日中両国の子ども文化の比較研究等を行っていくことを期している。

注

- (1) 梅花女子大学大学院「伝承児童文学特殊講義」（授業担当者：鵜野祐介）
- (2) 一年級の偷儿、二年級の賊、三年級的美女没人陪、四年級の帅哥超社会、五年級的情书满天飞、六年級的情侶成双对。
- (3) 日本の先行研究に「悪態」という名称を使うものがあるが、「悪態」には唄だけでなく、言葉や文も含まれている。本研究は子どもが歌うリズムミカルな唄に限定するため、「悪口唄」という言葉を用いる。
- (4) 日本最古の「童謡」は『日本書紀』（七二〇）巻二四にある「伊波能杯爾、古佐屢渠梅野矩、渠梅多爾母、多礙底騰裏囉栖、歌麻之之能鳥賦（岩の上に 小猿米焼く 米だにも 食げて通らせ 山羊の老翁）」とされ、この詞章は蘇我入鹿の謀略に対する山背王への民衆のメッセージを盛り込んだものとされる（鵜野 二〇〇〇…一八）。
- (5) 石人一只眼、挑动黄河天下反。
- (6) 天子在何处？宅在赤谷口。天子是阿谁？非猪即是狗。
- (7) 千里草、何青青。十日卜、不得生。
- (8) 直如弦、死道边。曲如钩、反封侯。
- (9) 太岳如世、人死如林。持金易粟、贵如黄金。
- (10) 日本でも前述の「童謡」は「わざうた」と読み下され、岡部弘彦によれば「神の意志や啓示の込められた歌」を意味していたとされる（岡部 一九八九・一九）。また、「おつつう御一つ」や「あんたがたどこさ」のような諷刺性を持つわらべうたもある（鵜野 二〇〇九…一一一―一一四）。この点は中国明代以前のわらべうたと共通する。
- (11) 童戏者好以两手持绳、拂地而却上跳、且唱曰、高末。
- (12) 元和小儿谣云、打麦打麦三三三、乃转身曰、舞了也。
- (13) 日本では子ども自身が歌っていたわらべうたは、『讃岐典侍日記』にある「降れ降れ粉雪 たまれ粉雪 垣や木の股に」（二〇九年頃）、『梁塵秘抄』にある「舞へ舞へ蝸牛 舞はぬものならば 馬の子や牛の子に 蹴させてん 踏み破らせてん まことに美しく舞うたらば 華の園まで遊ばせん」（二一九）などが散見される（鵜野 二〇〇〇…一八）。
- (14) 阴凉阴凉过河去、日头日头过山来。
- (15) 雨地雨地、城隍土地。雨若下来、谢了土地。
- (16) 脚驴斑斑、脚踏南山。南山北斗、养活家狗。家狗磨面、三十弓箭。上马琵琶、下马琵琶。驴蹄马蹄、缩了一只。
- (17) 日本最古のわらべうた集は、鳥取藩士・野間義学が因幡地方（現在の鳥取県東部）のわらべうたを集めた「筆のかす」であ

- り、その写本『古今童謡』(c.1733)には、約50編のわらべうたと子ども遊びが記録されている(尾原他二〇一六:一〇)。その他、江戸時代後期のわらべうたを集めた本として釈行智『童謡集』(c.1820)、小寺玉晃『児戯(尾張童謡集)』(一八三一)などがある(大嶋・川崎二〇〇八:一九)。一方、イギリス最古のわらべうた(mumsey rhymes)集は一七四四年頃にM. Cooperによって出版されたTommy Thumb's Pretty Song Bookとされる(Opte一九五一:三二)。
- (18) 日本語版・瀬田充子・馬場英子編訳『北京のわらべ唄』一九八六 研文出版
- (19) 日本語版・ロビン・ギル『中国のマザーグース』一九九一 北沢図書出版
- (20) 周作人は魯迅の弟である。一九〇六年、日本に留学し、『歌謡字数考』(中根淑著 一九〇八 大日本図書)を読み、わらべうたに興味を持つようになった。一九一一年に帰国し、中国のわらべうたを研究し始めたことされる(周 一九八九:二九一三六)。
- (21) 日本語版・平野敬一監訳『イソーを見た』一九九三 ほるぶ出版
- (22) 喝醉了、打老婆。老婆打死怎么过、挑起担子去卖货、挣两个钱再说一个。
- (23) 拆了屎缸做厅堂、烂壁上灰假排场。初一割猪十五卖、臭肉煎油假清香。灯笼烂了吊七框、花纸做衫假排场。尿桶拿来做饭
- (24) 甑、洗得再净唔清香。
- (25) 一二三四五、上山打老虎。
- (26) 红萝卜、抵抵甜、看到看到要过年。娃儿想吃肉、老汉没得钱。口水肚里吞、舌头嘴边舔。
- (27) 大米粥、稀溜溜。咸菜嘎子、喂啾啾。
- (28) 晚风轻拂澎湖湾、白水煮挂面。没有酱油多放点盐、味道还是一样的鲜。
- (29) 日照香炉生紫烟、李白来到烤鸭店。口水流了三千尺、摸摸口袋没带钱。
- (30) 笃笃笃、买糖粥。三斤的核桃四斤的壳、吃你的核桃还你的壳。
- (31) 打倒美帝国主义
- (32) 我去炸北约、北约太霸道。
- (33) 我家住在黄土高坡、萨达姆是我表哥。不管是老布什还是小布什、都拿我没奈何。
- (34) 六年级的情侣床上睡。
- (35) 床前明月光、地上鞋两双。一对狗男女、其中就有你。
- (36) 穿着三角裤、来到桃花岛、看到紫薇在洗澡。
- (37) 脚踏黄河两岸、手拿机密文件。前方机枪扫射、后方大炮连天。
- (38) 晚风轻拂茅坑板、苍蝇叮屁眼。没有手纸怎么办、用手擦屁眼。
- (39) 某某的头、像皮球、一脚踢到百货大楼。百货大楼、卖皮球、卖的正是某某的头。
- (40) 小老鼠、上灯台。偷油吃、下不来。
- (41) 欠钱不还、屁眼朝南。欠钱不给、屁眼朝北。
- (42) 一天不学习、赶不上刘少奇。

- (42) 老大开飞机,老二扔炸弹。幸亏老三跑得快,炸得老四稀巴烂。
 (43) 一命一、大肚皮、生个娃儿有问题。二命二、尿罐罐儿。三命
 三、当个官,坐到屋头吃饼干。

参考文献

鵜野祐介『生き生きごんぼ わらべうたの教育人類学』二〇〇〇
 久山社

同『伝承児童文学と子どものコスモロジー』二〇〇九 昭和堂

同『昔話の人間学 いのちとたましいの伝え方』二〇一五 ナカ
 ニシヤ出版

同『子どもたちの悪態』「日本子ども社会学会第26回大会(二〇一九
 年六月三〇日 東京成徳大学)公開シンポジウム資料」二〇一九
 未刊

大嶋陽一・川崎香苗「鳥取藩士が集めたわらべうた―日本最古の
 童謡集『筆のかす』と『古今童謡』―」『音夢』一 二〇〇七
 鳥取童謡・おもちゃ館

岡野弘彦『日本人のうたと死生観』一九八九 日本放送出版協会

尾原昭夫・大嶋陽一・酒井重美『古今童謡を読む』二〇一六 今
 井出版

川崎洋『日本の遊び歌』一九九四 新潮社

同『かがやく日本語の悪態』一九九七 草思社

小泉文夫『子どもの遊びとうた』一九八六 草思社

ロビン・ギル『中国のマザーグース』一九九一 北沢図書出版

瀬田充子・馬場英子編訳『北京のわらべ唄』一九八六 研文出版

藤本浩之輔編『子どものコスモロジー 教育人類学と子ども文化』
 一九九六 人文書院

同『子どもの育ちを考える 遊び・自然・文化』二〇〇一 久山社

车锡伦「被作为神学附庸的中国古代儿歌―古代儿歌研究之一」『扬
 州师范学院报(社会科学版)』3 一九八三 扬州师范学院报编辑部

胡桂勤「灰色童谣:是堵还是疏」『科普童话:新课堂』2 二〇一三
 黑龙江省语言文字报刊社

蒋凤「中国儿童文学发展史」二〇〇七 少年儿童出版社

雷群明・王龙娣・盖国梁『中国古代童谣』二〇〇三 上海文艺出
 版社

李传军・罗含「表彰隐藏的光辉:歌谣运动与中国现代民俗学的建
 立」『民俗研究』000(004)二〇一九 山东大学

辽宁省庄河县文化馆『庄河资料本』一九八七 辽宁省庄河县文化馆

刘慧芬・林存华「透析·校园新童谣·中的学生文化」『教学与管理』
 34 二〇〇七 太原师范学院

马家安・余妍霞「让学生远离灰色童谣的对策」『课程·教材·教法』
 028(001)二〇〇八 人民教育出版社

梅县地区民间文艺研究会・梅县地区群众艺术馆『粤东客家山歌』
 一九八一 梅县地区民间文艺研究会

潘健ほか「校园·怪味·童谣的调查与思考」『新德育·思想理论教
 育·行动版』24 二〇〇五 思想理论教育编辑部

齐芳「革新的号手―刘半农」二〇一五 中华工商联合出版社

袁增欣『百年中国儿童诗史略』二〇一九 河北少年儿童出版社

岳倩「对『灰色童谣』的社会学解读」『内蒙古师范大学学报(教育

科学版』08 二〇〇八 内蒙古师范大学学报编辑部

杨维娜「给新童谣多些理解和宽容」<http://edu.enorth.com.cn/system/2001/07/08/000086906.shtml> 二〇〇一 二〇一一年七月三〇日最終アクセス

周作人『儿童文学小论』一九八九 岳麓书社

Ople, Iona & Peter. I Saw Esau: The Schoolchild's Pocket Book 1947. Walker Books Ltd.

ibid. The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes. 1951. Oxford University Press.

ibid. The People in the Playground. 1993. Oxford University Press.

中国における子どもの悪口唄リスト

テーマ

悪口唄

①相手の属性(学年)

・一年生は泥棒 二年生は盗人 三年の美人は彼氏ができず、四年のイケメンはたくさん。五年の恋人たちはラブラブ、六年の恋人たちは一緒にベッドに寝る。(四川省成都市 二〇代女性)

・一年生は泥棒 二年生は盗人 三年のイケメンは彼女ができず、四年のスケベはたくさん。五年のラブレターはいっぱい、六年の恋人たちはラブラブ。(湖南省张家界市 二〇代男性 土家族)

・一年生は泥棒、二年生は盗人 三年のイケメンは彼女ができず、四年の美人は彼氏できない。五年のラブレターはいっぱい、六年の恋人たちは列に並べる。(四川省アバ・チベット族チャン族自治州 二〇代女性)

チベット族)

・一年生は泥棒、二年生は盗人 三年の美人は彼氏ができず、四年のイケメンはたくさん。五年のラブレターはいっぱい、六年の恋人たちはラブラブ。(河北省承德市 二〇代女性 滿族)

・一年生は泥棒、二年生は盗人 三年の美人は彼氏ができず、四年のイケメンは列に並べる。五年のラブレターはいっぱい、六年の恋人たちはラブラブ。(浙江省寧波市 二〇代女性)

・一年生のちびっ子、殴られると飛び上がる。(黒龍江省 二〇代男性)

②相手の外見(頭が丸い、頭が大きい、坊主頭、太っている)

・○○さんの頭、ボールみたい。それを蹴ったら、ボールはデパートに転がった。デパートでボールが販売されたが、○○さんの頭だった。(江蘇省常州市 二〇代女性、江蘇省蘇州市 二〇代女性)

・○○さんの頭、ボールみたい。それを蹴ったら、ボールはデパートに転がった。(吉林省遼源市 三〇代男性、浙江省衢州市 二〇代男性)

・今日は木曜日、○○さんは試験を受ける。点数は44点で、家に帰ってテレビを見る。○○さんの頭、ボールみたい。それを蹴ったら、ボールはデパートに転がった。(湖南省张家界市 二〇代男性 土家族)

・頭が大きな子、雨の日でも大丈夫。ほかの人はかさを差すが、彼は頭で十分だ。(上海市 二〇代男性、河南省洛陽市 二〇代男性、河北省承德市 二〇代女性 滿族、河北省張家口市 五〇代女性)

・坊主頭、肌が白い。山に登ってドイツの軍隊と戦う。ドイツは負けて、坊主頭は褒められる。(四川省南充市 五〇代女性)

・太ってる子、馬に乗って成都に行く。成都はにぎやかで、太ってる子は白い馬に乗る。馬は飛び上がって、太ってる子は落ちてべちゃんこになる。(四川省成都市 四〇代女性)

③相手の行為（嘘をつく、振り返る、お金を借りて返さない、いたずらする、足が踏まれて悲鳴を上げる）

・編んで、編んで、かごを編んで、それを持って南山に行く。（河南省洛陽市 二〇代男性）

・〇〇さん一回振り返ると、川辺の牛がびっくりして死ぬ。〇〇さん二回振り返ると、お坊さんがシャンプーで髪を洗う。〇〇さん三回振り返ると、ハレー彗星が地球にぶつかると。（河南省南陽市 三〇代男性）

・お金を借りて返さないやつ、尻の穴は南に向ける。お金を借りて返さないやつ、尻の穴は北に向ける。（吉林省遼源市 三〇代男性）

・三日間叩かなければ、おまえは屋根に登って瓦を取る。（吉林省遼源市 三〇代男性）

・おまえの足を踏んだら、あいよよ！（四川省南充市 三〇代男性）

④相手の家族（母）
・おまえのお母さん、頭が悪い。夜中に起きて、庭を掃除する。（四川省成都市 四〇代女性）

⑤唱歌、漢詩の替え唄

・夕暮れの風がそよそよと澎湖湾に吹き渡り、白い水で麵を茹でる。醤油はないけれど、塩をたくさん入れるとおいしい。（四川省成都市 二〇代女性）

・夕暮れの風がそよそよとトイレに吹き渡り、ハエが尻の穴に押し寄せてる。トイレトペーパーがなくてどうしよう、手で尻の穴を拭こう。

（浙江省杭州市 二〇代男性）

元の歌：「おばあちゃんの澎湖湾」

夕暮れの風がそよそよと澎湖湾に吹き渡り、白い波は砂浜に押し寄せてくる。夕陽に映えるヤシの林はないけれど、ただ一面の海は青々として

いる。

・おひさまが空に照っている、お花が私に向かって笑う。小鳥さんが言うよ、「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、どうして、爆弾を背負っているの？」私は学校を爆破する、先生はわからない。引き金を引いて、早く逃げる。ドカーンと学校が飛んでいった。（江蘇省常州市 二〇代女性）

・おひさまが空に照っている、お花が私に向かって笑う。小鳥さんが言うよ、「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、どうして、爆弾を背負っているの？」私は学校を爆破する、先生はわからない。引き金を引いて、早く逃げる。先生の頭にこぶがいついづいできた。（黒龍江省 二〇代男性）
・小鳥さんが言うよ、「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、どうして、爆弾を背負っているの？」私は学校を爆破する。（浙江省衢州市 二〇代男性）

・おひさまが空に照っている、お花が私に向かって笑う。小鳥さんが言うよ、「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、どうして、爆弾を背負っているの？」おれは北大西洋条約機構を爆破する、その機構はばかばかしいから。引き金を引いて、早く逃げる。ドカーンと世界は平和だ。（上海市 二〇代男性）

元の歌：「学校に行く」

おひさまが空に照っている、お花が私に向かって笑う。小鳥さんが言うよ、「おはよう、おはよう、おはよう、おはよう、どうして、小さなランドセルを背負っているの？」私は学校に行く、毎日遅刻しない。勉強が好き、お仕事も好き、大きくなったら、人々のために奉仕したい。

・日は香炉を照らして紫煙を生ず、李白は北京ダックの店に来る。よだれを三千尺垂らし、ポケットを触ったらお金はない。（江蘇省常州市

二〇代女性、湖南省張家界市 二〇代男性 土家族

元の漢詩…「廬山の瀑布を望む」

日は香炉を照らして紫煙を生ず、遙かに看る瀑布の前川に挂かるを。飛流直下三千尺。疑うらくは是れ銀河の九天より落つるか。

・春眠暁を覚えず、処々に蚊にくわれる。夜来熊が来て、誰も逃げられない。(湖南省張家界市 二〇代男性 土家族)

・春眠暁を覚えず、処々に蚊にくわれる。くわれると腫れ上がる、腫れ上がったところは数え切れない。(河北省張家口市 三〇代男性)

元の漢詩…「春暁」

春眠暁を覚えず、処々に啼鳥を聞く。夜来風雨の声、花落つること知る多少ぞ。

・李白舟に乗つてお金を払わない、船頭に蹴られて水に落ちた。桃花潭水深さ千尺、李白は死ぬかどうかわからない。(湖南省張家界市 二〇代男性 土家族)

もともとこの漢詩…「汪倫に贈る」

李白舟に乗つて将に行かんと欲す、忽ち聞く岸上踏歌の声。桃花潭水深さ千尺、及ばず汪倫が我を送るの情に。

・禾を鋤いて日午に当たる、〇〇さんはしんどい。朝マージャンをして、午後トランプで遊ぶ。(湖南省張家界市 二〇代男性 土家族)

元の漢詩…「農を憫むの詩」

禾を鋤いて日午に当たる、汗は滴る禾下の土。誰か知る盤中の喰、粒粒皆辛苦なるを。

・床前明月の光、床に二足の靴がある。ベッドに男と女がいて、そのどちらかがおきました。(湖南省張家界市 二〇代男性 土家族)

・床前明月の光、李白は寝ている。夢の中で牛魔王を見て、怖くておね

しよした。(河北省張家口市 三〇代男性)

元の漢詩…「静夜思」

床前明月の光、疑ふらくは是れ地上の霜かと。頭を擧げては明月を望み、頭を低れては故郷を思ふ。

・我が家は黄土の長い坂にあり、サツゲームはおれの従兄だ。プッシュ・シニアでもプッシュ・ジュニアでも、おれにかかつては全くお手上げだ。(四川省南充市 三〇代男性)

元の歌…「黄土の長い坂」

我が家は黄土の長い坂にあり、強風が坂の上から吹いてくる。西北の風でも東南の風でも、全て私の歌、私の歌。

・「ガア、ガア、ガア」白鳥たちの長い首にナイフを当てる。羽を抜いてお湯に入れ、鍋で白鳥を茹でる。(河北省張家口市 三〇代男性)

元の漢詩…「白鳥を詠う」

「ガア、ガア、ガア」青空に向けて白鳥たちが長い首を曲げたまま歌っている。白い羽が緑の水に浮かび、赤い水かきで清い波をかき分けている。

⑥数え唄

・長子は飛行機を運転して、次子は爆弾を投げた。三子は足が速くて逃げたが、四子はめちゃくちゃになった。(江蘇省常州市 二〇代女性)

・二二三四五、山に登って虎を撃つ。虎を見つせず、リスを撃った。(黒龍江省 二〇代男性、江蘇省南京市 二〇代女性、白族、江蘇省常州市 二〇代女性)

・二二三四五、山に登って虎を撃つ。虎は家におらず、リスを見つけた。リスは何匹いるの？二二三四五。(河北省張家口市 五〇代女性)

・二二三四五、山に登って虎を撃つ。虎はご飯を食べず、悪い人だけ食

べる。(河北省張家口市 五〇代女性)

・一二三四五、山に登って虎を撃つ。虎は人間を食べず、太ってる子だけ食べる。(河北省張家口市 五〇代女性)

・一二三四五、山に登って虎を撃つ。虎は家におらず、おならしたのは彼だ。(四川省南充市 五〇代男性、広西省柳州市 三〇代女性)

⑦食べ物

・おかゆ、さらさら。漬物、さくさく。(黒龍江省 20代男性)

・ドドド、甘いおかゆを買う。3斤のくるみ、4斤の殻。おまえのくるみを食べ、おまえに殻を返す。(江蘇省蘇州市 二〇代女性)

・にんじんは甘い。春節はすぐ来る。子どもは肉を食べたいが、お父さんはお金がない。よだれを飲んで、唇を舐める。(四川省南充市 五〇代女性)

⑧動物

・ねずみがランプに登った。灯油をこっそり食べた後、降りることができなかった。(江蘇省南京市 20代女性 白族、河南省南陽市 三〇代男性)

・ねずみがランプに登った。灯油をこっそり食べた後、降りることができなかった。にんにくにゃんにゃん、猫が来た。ねずみはランプから転んできた。(河北省承德市 二〇代女性 滿族)

・ねずみがランプに登った。灯油をこっそり食べた後、降りることができなかった。お母さん呼んだが、お母さんはいない。ランプから転んできた。(河北省張家口市 五〇代女性)

⑨排泄

・おまえは天と地を支配しても、おれのうんこすることやおならすることを支配できない。(河南省南陽市 三〇代男性)

・〇〇さんのおならはすごい、天地を揺さぶって、海を越えてイタリアに着いた。イタリアの王さまはオペラを見ている。それを見て、「どこに武器だ」と言う。(上海市 二〇代男性)

・黄河の兩岸を跨いで、手には秘密の資料を持っている。先方からは機銃掃射が、後方から大砲が発射する(うんこすることを指す)。(湖南省張家界市 二〇代男性 土家族)

・おまえのお母さん、おならした。おならは天地を揺さぶって、イタリアまで着いた。イタリアの王さまもその匂いを嗅いだ。(四川省アバ、チベット族チベット族自治州 二〇代女性 チベット族)

⑩自分

・日曜日の朝霧が濃い、パンツ一丁で桃花島に来た。紫微がシャワーを浴びているのを見た。(湖南省張家界市 二〇代男性 土家族)

・ごろごろ、雷が落ちる。おれは登場する。(河北省承德市 二〇代女性 滿族)

・私は髪切りが上手で、はさみを使わない。髪をつかんで軽く抜くと、こぶができた。(四川省南充市 五〇代女性)

⑪兄弟

・長子は親しい、末っ子はかわいい。中間子は怒られて叩かれるだけ。(河南省南陽市 三〇代男性)

⑫政治

・アメリカ帝国主義を打倒せよ。(河北省張家口市 五〇代女性) (しゅう・ちんえん／立命館大学博士課程後期)